

# 更農

発行所  
更農農業高等学校  
同窓会

住所  
長野県長野市篠ノ井布施高田200

発行人 正至  
編集人 祐樹  
新井 泰裕  
山野井

## 新たな飛躍の年へ 創立120周年を迎えて



同窓会長 越 正至

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃は、同窓会活動、支会活動や母校へのご支援を始め、諸活動にご協力を頂き厚く御礼を申し上げます。

本校は、西暦一九〇七年明治40年に、

## ご協力に感謝



学校長 武藤 穰

同窓会の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育環境整備やクラブ活動等にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、更農農業高等学校は来年度いよいよ創立120周年を迎え、輝かしい歴史と伝統を築いていくことができました。これもひとえに、これまで多くの同窓生の諸先輩方がご活躍され長野

の皆様とともに、祝っていたいだきたいと思えます。

さて、令和6年1月から始まった「長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」は9回開催され、学びのイメージの一つを「農業×商業×家庭科 深める・つながる・ひろがる学びで未来をデザイン」とし、設置学科は「農業科×商業科×家庭科の3科」、「DX教育を全生徒に展開し、地域と連携した学びを推進する。」との方向性がまとまり、今後は、学校像、教育方針、

校地や施設・設備、教育内容等の具体的な内容について、協議していく予定でいます。

また、校地検討会議も設置され、校地選定に係る基本方針が承認され、具体的な検討が開始されています。いずれにしても、少子化が急速に進む中、できるだけ早く「長野千曲総合技術新校」が開校できるよう関係者を始め、地域の皆様とともに取り組んでまいります。結びに、同窓会員をはじめ、武藤校長先生、教職員の皆様方と一体となって、生徒の将来を考えた新たな学び「農業」を目指すとともに、更なる更農の発展を願いあいさつとします。



同窓会 総会

の農業や地域の発展に貢献されてきた証左であり、深く敬意を表します。

現在、日本の農業は大きな転換期を迎えています。長年にわたる担い手不足は依然として深刻な課題であり、特に若い世代の新規就農者の確保が急務となっております。また、不安定な国際情勢や常態化した異常気象により、食料安全保障の重要性がかつてないほど高まっています。そのような中、令和

6年に食料・農業・農村に関する基本的な施策である「食料・農業・農村基本法」の改正が行われ、気候変動や国際情勢の変化に対応するための新たな施策が追加されました。特に、スマート農業などの先端技術の導入、農産物の付加価値の向上、地域の資源を活用した事業活動の推進などが謳われています。

このような時代の変化に対応するため、本校では令和6年度の学科改編を期に教育内容のバージョンアップを図っています。具体的には、基本的な栽培技術の学習に加えAIやIoTを活用した

スマート農業に関する教育を推進し、効率的で持続可能な生産技術を学べるようにしたいと考えています。また、6次産業化や地域と連携した取り組みを充実させることで、時代の変化に強い農業を学ぶとともに、その学びを通して様々なチカラを育成したいと考えています。また、生徒たちが自ら課題を見つけ、解決策を導き出す「課題解決能力」を育むことも重視しています。単に農業技術を教え込むことだけではなく、本校創立以来の質実剛健の校風に則り、地域社会に貢献し農業や関連産業を通じて豊かな未来を築くという

高い志を持った人材を育みたい、そんな願いをもって取り組んでいます。そんな中、来年度の120周年事業では「AI技術がつなぐ、未来の食と農業（仮題）」との内容で、生徒のために講演会を企画していただいております。こと、本当にありがたく思っています。同窓生の皆様におかれましては、それぞれの現場で培われた豊富な知識と経験を、ぜひ次世代の生徒たちにご教授いただければ幸いです。

結びに、同窓会の更なるご発展と、会員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

# 農場報告

農場主任 徳武 晃

今年の気候ですが、5月21日の夕方に長野地域と北信地域の一部で最大5分程度の降雪と非常に強い風が発生しました。被害地域の多くの園地で大きな被害がありました。また、6月上旬まで平年並みの気温で推移しましたが、6月中旬から8月上旬まで平均気温が平年より2℃ほど高い気温で推移しました。降水量について、梅雨明け後は少雨傾向が続ぎ、お盆前に局所的な降雨がありました。この雨の降り方は部門によっては作物の生育に大きな影響を与えました。

このような気候の中でしたが、各部門の栽培状況は次のとおりです。作物部門では、夏場の高温により積算温度が高く、収穫時期も早まっています。今年度新たに更新されたコンバインにより、収穫が順調に進みました。収量についてはほぼ平年並みとなりました。

野菜部門の露地栽培は夏場に高温があったものの、8月に入り降水量があり生育は順調に推移しました。また、施設栽培に関しても平年並みの収量となりました。

草花部門では、夏場の施設内の温度管理に苦勞しました。草花の生育自体

は良好で多くの方に楽しんでいただいています。

果樹部門では、特に高温少雨によりブドウ開花のばらつきが見られ、初期肥大が停滞したことで、その後の果粒肥大も平年より小さい傾向となりました。

加工部門では、6月から7月の高温少雨により、加工トマトの開花が減少し、8月に入り収穫量が激減しました。しかし、収穫期間前半のトマト果実の品質は良く、その加工品は高品質な商品となりました。

また、今年夏の長野県学校農業クラブ連盟主催、平板測量競技大会では最優秀賞に輝きました。さらに、農ク全国大会農業鑑定競技会では2名が優秀賞を受賞し、西関東大会での平板測量競技会が未実施のため、長野県代表として優良表彰校の表彰を受けました。地域との連携では、善行寺花回廊のタペストリーガーデンの作成、JAグリーン長野との連携による親子ふれあい農業塾、幼稚園・小学校との農業交流、姨捨棚田のオオルリシジミとその食草クララの保護回復活動と多面的活用、

国天然記念物「神代桜」の後継樹育成、そして地元伝統野菜である小森ナス

の栽培・普及・商品開発活動などを継続しています。今年度も多くの生徒の活躍が見られました。今後も様々な取り組みを通じ、地域から必要とされる学校を目指して行きたいと考えています。



更新されたコンバインを使用した実習風景



中学生体験入学の様子

## 在校生より

生徒会活動を振り返って

三年 山田 令和

この一年は私にとって、自分の無力さと弱さを実感し、成長をさせてくれた一年でした。前生徒会長から引き継いでくれるときには、生徒会長として右も左もわからずただ時間だけが過ぎていき、準備ができたときには行事の前日や当日になっていることがありました。

そして生徒会の一大イベントである文化祭期間中は、執行部の数人へ頼り過ぎてしまったり、自分自身がするべきことがわからなくなってしまうました。報連相がまったく取れていませんでした。そこで一人一人と話をし、書き出し、全員で話す時間を増やしたりと工夫をしました。すると問題点や改善点だけでなく、アイデアなども分かりやすくなり話し合いの大切さがより実感できました。また今年度は全校朝会での身だしなみチェックの強化と校内祭での服装ルールの緩和などの取り組みを行い、全校で一体感のある文化祭を作り上げることができました。しかしまだまだ改善することも多いため来年度へしっかりと引き継ぎたいです。この生徒会活動は、本当に私を成長

させてくれました。頼りない生徒会長だったかもしれないが、そんな私を会長として接し、向き合ってくれた執行部、先生方、全校生徒のみなさん本当に一年間ありがとうございました。



第63回更農祭

文化祭ポスター

## 農業クラブ活動を振り返って

三年 櫻井 大河

本年度の農業クラブ活動は、昨年度の引き継ぎを活かし、より良い農業クラブ活動を目指して活動して来ました。十月に実施した更農祭では、城山動物園からカメとモルモットをお借りして出張動物園、模擬農業鑑定を企画しました。出張動物園では、とても多くの人が動物と触れ合い、多くの笑顔を見ることができました。模擬農業鑑定では、卒業した先輩方が懐かしがりながら挑戦し、一般の方は農業高校の行事に触れる機会となりました。

また、sbc信越放送「夢テレビ」の企画として文化祭の様子を生中継していただき、放送終了後には「放送を見た」

という多くの方々が農産物や加工品を購入しに来校してくださいました。そして、今年度も「善光寺花回廊」「AC長野パルセイロのホームゲーム」での出張販売など数々のイベントに参加しました。多くの方に本校の農産物や加工品を購入していただき、本校の取り組みを知ってもらうことができました。

今年を振り返ると、多くのイベントや交流を行う中で一人一人が責任感を持ち取り組むことができました。今年の良かった点や反省点を来年度に活かし、より一層更級農業高校と農業クラブを盛り上げてくれることを願っています。最後に今まで関わってくださった多くの方々には深く感謝申し上げます。



AC長野パルセイロホームゲームイベント



善光寺花回廊

優秀賞を受賞して

三年 田中 海愛

私は今年度、山梨県で行われた第76回日本学校農業クラブ全国大会西関東大会農業鑑定競技会分野食品に出場しました。大会へ出場するためには校内での農業鑑定競技で全校生徒の中から代表に選ばれる必要があります。高校一年生の時から毎年、決選農鑑まで行くものの代表に選ばれることは叶わず今回が初めての出場でした。そして今年度は高得点を取ることができたため、「食品分野は田中で決まりだから」と先生に言われました。その時は選んでもらえた嬉しさの反面、本当に自分で大丈夫なのかという不安もありました。出題範囲を教えてもらった時は授業で触れていない部分があり、自分の知らない単語で溢れかえっていて絶望を感じました。三年生ということもあり進路に向けての対策をしつつ勉強をしていくのは自分にとってはとても大変で、「人生を左右する進路の方が大事だから」と勉強を投げ出してしまおう

という衝動に駆られたものの、「なかなか経験できることではないよ」という先生の言葉が支えとなり勉強に励むことができました。勉強方法は、自分が見返した時にわかりやすいよう文章をまとめたノート作成、記憶に残るよう写真を貼るのではなくイラストを自分で描いたりしました。しかし、丁寧にやりすぎた結果夏休みが半分以上終わっているにもかかわらず出題範囲の三分の一も終わっていないことに気づき、焦りを覚えました。さらにそれまでに書いたノートを見返してもなかなか単語を覚えることができず焦りは募るばかりでした。そんな中、初心に戻ろうと校内の農業鑑定での勉強方法を振り返ってみると、ノートを見返すことはなく、名称や文章の大事な部分部分を隠して解いていくという赤シートを使ったような勉強法をしていて、これだ！と思いました。それからノート作りは本当に大事な部分だけにして覚えることを優先して取り組みました。本番前は、とても緊張していました。今までの勉強内容を撮った写真フォルダを見返すなどできるだけ時間を無駄にしないように、緊張を少しでもほぐせるように一緒に参加する仲間と話し、いろいろな気持ちを持ちながら過ごしました。大会本番は会場に行くまで胸がドキドキで平常心を保つことに必死でした。私は緊張に弱い性格で、正確に解くことができるのか不安でいっ

ぱいでした。いざ会場につき、自分の番が来ると不思議と緊張は少なくなり問題に集中することができました。そこには自分はしつかり頑張ってきたから大丈夫という自信があったのだと思います。自分に合った勉強方法で取り組めたことも良かったと思いました。競技が終わわり、やり切ったという気持ちと、もつとこころを勉強していればという後悔で複雑な気持ちでした。自己採点でも満足のいく点数ではなく優秀賞を受賞できるか怪しくて全国大会の厳しさを味わいました。結果は、優秀賞を受賞できましたが、やはり後悔も大きくりベンジできないことが悔しいですが、誰もが経験できない全国大会に出場することができてよかったなと思います。指導し、勉強を投げ出さないよう見守ってくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

優秀賞を受賞して

二年 関 昊暁

私は今年、山梨県で行われた学校農業クラブ西関東大会農業鑑定競技・区分野菜に出場し、優秀賞を受賞することができました。私は、昨年の校内農業鑑定競技において、上位になり全国大会に出場できる権利はありましたが、その時はまだ力不足だと思い辞退しました。その時に、「来年は行こうと思います。」と宣言したこともあり、今

年は全国大会出場を目標に、校内農業鑑定競技に臨みました。結果、無事全国大会への出場権を得ることができました。正直言うと、その時点で既にかなり満足しきってしまっていました。その後、全国大会の出題範囲を担当の先生に教えてもらいましたが、校内で行われた農業鑑定競技と比べ物にならないくらいの出題範囲で、先が見えず意気消沈していた矢先、担当の先生には「夏休み中に農鑑ノートを大方完成させておいてね。」と言われました。私はその時、全国大会を甘く見ていたため、少し後悔することになりました。夏休みに入り、余裕をもってノートを完成させようと思いついていたものの、資格取得や部活の大会などが重なり、夏休みも終わりに差し掛かった頃になってノート作りを始めました。出題範囲一覧の紙を参考に、わからない言葉やインターネットで調べてまとめる作業を繰り返して、ノートを作っていきました。どのようにまとめたらいいか分からず、試行錯誤しながらノート作りを進めました。夏休みが終了してもノートは完成しませんでした。休み明けは学校の勉強もありペースが落ちてしまいい、一カ月ほどかけてノートをなんとか完成させました。過去問で対策する頃には、文化祭準備が始まりペースが落ちてしまいました。文化祭も終わりで、大会2週間前くらいからは一気に追い込み、過去問にも本格的に取り組み

はじめました。過去間に取り組み始めたのは少し遅かったかなとは思いましたが、順調に点数を上げ大会1週間前くらいには安定して点を取ることができるようになりました。やる気を失ってしまいそうな日もありましたが、学校の代表として出場するからには優秀賞を受賞したいという思いを強く持ち勉強を継続しました。

大会前日、勉強が足りていないのではないかと、優秀賞をとれないのではないかとという不安に押しつぶされそうになりながら最終確認をし、翌日に向けて早めに寝ました。

大会会場に着き、バスを降りると全国各地から多くの出場生徒が集まっており、その光景に不安と緊張が一気に高まりました。競技が始まると、二十秒の回答時間は練習時よりずっと短く感じました。最初は落ち着いて問題を解くことができていたものの、解けない問題が出題されてから調子が悪くなり、競技中は焦りが募るばかりでした。計算問題は、過去問で練習した時はいつも時間内に解くことができていたのに、強い焦りのせいで一問しか解くことができず、とてもショックでした。大会が終わわり、外に出てみんなで昼食を食べましたが、みんな思いつき口数が少なく感じました。帰りのバスで自己採点をしましたが、点数が良くな、「これはもうダメだな」と思い、先生に伝えるのが怖かったです。式典会

場のバスに向かう途中で、先生から結果発表があり、先生から一言、「おめでとう」と言われた瞬間、全身の力が抜け、嬉しさのあまり飛び跳ねそうになりました。もしかしたら無意識に飛び跳ねていたかもしれません。忙しい中、辛い時、どんなことがあっても投げ出さず最後まで努力して本当に良かったな、と思いました。

私が優秀賞を受賞することができたのは、もちろん私自身の努力の成果ということがあります。支えてくださった周囲の方々のおかげでもあります。全国大会の出場にあたり、長い間支えてくださった先生方、家族、友人の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。

### 最優秀賞を受賞して

三年 櫻井 大河

私は今年、選択授業で測量を選びました。その際に測量の大会があることを知り、大会に出場したいと思い仲間を集めました。測量のメンバーは運動部に所属しており、大会が終わるまでは全員が揃って練習することができない状態が続き、このままでは出場を辞退する目前までいきましたが、仲間と話し合い出場すると決めたからには最後までやり遂げ、最優秀を取ろうという目標を掲げ練習に取り組みました。全てが初めての事で一つ一つの工程、動きを覚えることにも苦勞をしましたが、一次作業の練習を繰り返していくうちに、タイムが縮まるようになってきました。しかし、同じミスをしてしまい、正確性の大切さを知りました。タイムを気にするのではなく一つ一つの動きをしつかり覚え、正確性を出すことを意識しました。二次作業では、オフセット野帳の図示に時間が掛かってしまい、三次作業では、三角スケールの数値を見るのに時間がかかってしまいました。先生にコツを教えてくださいながら練習を繰り返していくうちに、すべての作業において正確性が出て来て、タイムが縮まり、誤差が減っていききました。

大会の一週間前、進路行事等があり練習時間が限られてしまい練習量が減り不安でしたが、限られた時間の中で

練習に取り組みました。前日の練習では、今までやって来た正確性を発揮でき、本番での自信に繋がり大会に臨みました。

大会当日は、他の高校が僕たちよりもずっと早く終わっていて焦りました。一次二次作業はそこまで大きなミスなく三次作業に進みました。練習の成果もあり、楽しく落ち着いて競技を行いました。式典での結果発表にて、「更級農業高校」と呼ばれたときは驚きと感動でいっぱいでした。

大会を通して、日々努力することや協調性の大切さを実感しました。競技に参加した仲間と丁寧に指導してくださった先生に感謝しています。ありがとうございました。



測量クラブ

### フラワーアレンジメント競技会

優秀賞を受賞して

二年 星野 唯香

フラワーアレンジメント競技会の県大会に出場し、優秀賞をいただくことができました。県大会前は一ヶ月とい

う限られた練習時間の中で、自分のテーマ・デザインをすぐに決めることができず、焦りと不安が大きかったことを覚えています。今年初めて県大会に出場することが決まって普段感じるのではないプレッシャーで思うようにアレンジメントができない日もありました。しかし、同じコースの仲間やクラスメイト、友達の応援もあり、大会当日は思い通りの作品を仕上げる事ができました。表彰式の時、名前を呼ばれた瞬間は本当に嬉しかったです。

大会への出場を通して、アレンジメントの技術だけでなく、自分で考えて行動する力が身につきました。約一ヶ月の間、指導してくれた講師の方や放課後おそくまで付き合ってくれた先生方、そばで支えてくれた友達や家族には感謝の気持ちでいっぱいです。来年は全国大会出場を目指して頑張りたいと思います。



フラワーアレンジメント競技会

### ながの花と緑大賞を

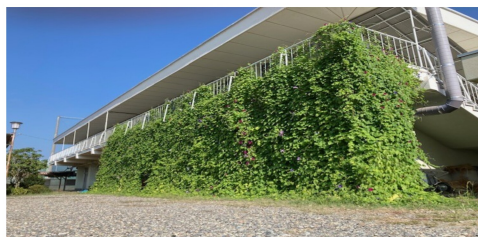
受賞して

三年 西方 陽菜

「ながの花と緑大賞」特別テーマの部(緑のカーテン)において、私たちが制作を行ったグリーンカーテンが大賞を受賞し、大変嬉しく思っています。

グリーンカーテンは猛暑が続く夏に強い日差しを遮り、冷房の使用を少しでも抑えることで、地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素の排出を減らすことに繋げることができ、環境にも優しい取り組みです。設置だけでなく撤去・片付けのことも考え、腐敗して堆肥化が可能な麻紐ネットを使用しました。使用後は植物とともに堆肥にすることができ、その他の植物にも利用し、循環しています。畝をつくる際には、猛暑日が続いていることや休日には灌水できないことも考え、畝の幅や高さ工夫しました。

たいと思います。



グリーンカーテン制作

### 県大会意見発表優秀賞

竹の新たな活用法で

放置竹林を減少へ

三年 北島 和奈

皆さんは放地竹林という言葉を知っていますか？放地竹林とは管理が行き届かずに、竹が増殖したままの竹林を指し、周囲の植物の生育を妨げたり、土砂災害や害獣の温床になるなどの問題を引き起こします。私はこのように竹林が増殖し、管理が行き届いていない状態になってしまった理由に、竹の繁殖力の早さに伴い竹林を管理する人の減少、そして竹が日常的に使われなくなったことが大きな要因だと考えています。日本最古の

歴史書である古事記や日本書紀には、竹が食用や薬用に使われていた記録が残っており、古くから竹は籠や箆、ホウキなどの日用品、漁具、家の建材などさまざまな目的で使われ、人々の手によって竹林が管理されていたようです。しかしプラスチック製品や安価な輸入品が増え竹は人々の生活から遠ざかっていきました。そこで、私は現代の生活様式にあった方法で竹を利用していくことが放地竹林の問題解決に繋がると考えています。昨年と今年、私たち施設野菜コースとJRC部が共同で長野市の七二会地区の竹林で竹の伐採作業を行いました。七二会地区の住民の方たちから竹について学んだあと、実際に伐採などの方法を教えていただき作業を行いました。竹林では、切り株に足がつまずき転倒したり伐採した竹に乗ってしまうと滑って事故につながるなどの危険があるため注意が必要でした。また、竹林整備に参加する方たちは高齢の方が多く、高齢化や後継者不足の深刻さも課題として見えてきました。

竹は小型チェーンソーで伐採した後、粉砕機で粉砕し竹パウダーを作りました。竹パウダーには乳酸菌が含まれており、土壌改良材として土壌に投入することで作物の発育促進や糖度、旨みの増加などの効果があると言われています。先輩方が長野県工業技術総合センターで竹パウダーに乳酸菌が含まれるかを検査してもらった結果、乳酸菌が含まれることが認められ、本校では竹パウダーを用いた野菜の栽培実験を継続的に行っていました。

また、私の弟がJRC部に所属していますが、そこでは、竹から精油を作る研究や竹チップや竹パウダーを生ゴミ処理に使うなどの実用化に向けて研究活動を行っているという話も聞いています。その他にも竹パウダーは家畜の飼料、バイオエタノールの基材として利用しようという期待もされているようで、現代において竹はとても魅力的な資源です。

私は、食分野の課題にも竹が活躍できると考えています。現在、多くの感染症が猛威を振るっていますが、そんな時、私が一番大切だと考える予防方法は自己免疫力を高めることです。私の母が健康のために今年からぬか漬けを作り始め、食卓に出す機会が増えました。その結果、私の肌トラブルや腸内環境、メンタル面などに良い変化が現れました。このことから米ぬかと同様に、竹のぬか床でも同じような効果が得られると考え、私は今年、竹パウダーを利用したぬか漬けを実践してみようと考えています。

現在私は、施設野菜コースで学んでいます。三年生になると課題研究という科目があり、今年、今年は一研究で行うことになりました。私は、竹について興味を持ち、それを深めるために竹パウダーを土壌に投入し、トマトの生育や果実の品質にどのような影響を及ぼすかの比較調査を進めています。私は、この研究についてどのような結果が得られるか大いに期待をしています。また、二年前より、竹パウダーを七二会地区の住民と地元企業、そして私たちが共同で道の駅などで販売を行っています。私は、研究結果から収量やおいしさを増す効果が得られれば、より説得力のある商品として販売でき、竹の活用をする人や場が増えると考えています。現在、七二会地区には5ヘクタールの放置竹林があり、三年間で4000㎡の整備が進みました。私たちが竹林整備活動をしている七二会地域では、竹は厄介者として扱われていますが、竹には多くの可能性が地域づくりに進め、それが地域活性化となればよいと思います。



親子ふれあい農業塾



県大会出場参加生徒

# 卒業生より

果樹農家

平成三十一年度卒

浦野 眞吾

私の今の仕事は農業です。千曲市倉科でブドウを栽培しており、今年から家業を継ぐことになりました。小さい頃から身近に農業があり、高校も更級農業高校に進みましたが、学生当時は継ぐ気がありませんでした。農業は疲れるし、飽きるし大変だなと思っと思っていませんでした。そこから農業に興味を湧いてきたのは、社会人になって三、四年経った頃です。畑を手伝う機会が増え、いろいろな仕事をやってみると今まで見えていなかった物が見えてきました。もちろん大変な事には変わりませんが、自然に囲まれながら仕事をすると爽快感と試行錯誤しながら自分の手で育て上げる達成感を感じています。そして、何よりブドウを買ってくれたお客様が「美味しかったよ」と言ってくれた時、すごく嬉しいのです。また来年も頑張ろうと思えます。まだ、農家一年目の未熟者ですが、先輩方からたくさん事を教えて

ていただき、挑戦していきたいと思うところからが楽しみです。

## 年次代議員になつて

令和六年度年次代議員

宮下 樹生

私は令和七年三月に更級農業高校を卒業し、年次代議員を務めさせていただくことになりました。在校中は生産技術コースに所属し、主に稲作について学んできました。また姨捨棚田の保全活動なども行ってきました。農業高校でしか学ぶことができない体験が多くあり、とても楽しく学生生活を送ることができました。農業クラブ活動では県連事務局になっていたこともあり、執行部書記として多くの活動を行ってきました。会議や北信越大会の運営など他校の農業クラブ員や県外のクラブ員など多くの方と関わる中で多くのことを学ばせていただきました。活動を通して周りを見る力や、自分から積極的に動く力を身につけることができました。

私は現在、長野県農業高等学校に通っています。私が在籍する実践経営者コースは長野県で農

業経営を営む者を育成することを目的としたコースです。更級農業高校の卒業生として誇れるような経営者になるべく勉学に励んでおります。また年次代議員としても今後農業に関わっていく身として何か役に立てれば幸いです。今度ともよろしくお願いいたします。

令和六年度年次代議員

富山 紗朱

私は令和七年三月に更級農業高校を卒業し、年次代議員を務めさせていただくことになりました。在学中は、食品科学コースに所属し、食品に含まれる成分の分析やHACCPに基づいた食品加工方法について学んでいました。SDGsの取り組みとして、学校で採れた加工用トマトを使い、傷んでいる箇所を取り除き加工を行うことで、フードロス削減に繋げる活動をしていました。加工品を作るうえで、衛生管理を整えることの重要さと、食材を無駄にしないことの大切さを学びました。

また、高校二年生の後期から農業クラブ執行部として農業系の大会の運営、各種県大会に出場し、更級農業高校の魅力を発信していました。地域の方や他

校の生徒と関わることもあり、目上の方と話す機会が多くあり、「丁寧な言葉遣い・先を見て行動する力」を身につけることができました。

高校三年間は、初めての経験が多く、学ぶことがたくさんありました。これらの経験が大学生になった今、自立して行動するための力として、とても役に立っています。年次代議員として、更級農業高校の魅力の発信、発展に向けて全力で務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。

## 同窓会事務局より

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は支会活動を通じて、母校並びに同窓会にご支援賜りましてありがとうございます。

本年度の総会は、6月7日にJAグリーンパレスを会場に行われました。多くの役員の方に出席いただき、昨年同様二十代代の年次代議員委員の方も多く、先輩方と歓談する姿を見ることができました。高校再編計画が進む中で、このような世代を超えた交流が続くことを願い、今後も事務局として、会員の皆様に情報発信を行っていきたくと思っております。

編集後記

シでの掲載にご理解いただきませすようお願い申し上げます。

年一回の発行ではありますが、更農280号が完成いたしました。毎年各支部の支会長様には大変苦勞をいただきながら会員の皆様に向けていただいております。またこのことに感謝いたします。

本年度より各会員の皆様への配布はございませんが、母校と支会、そして会員の皆様との橋渡しになれば幸いです。今後も、学校ホームページにおいて校外における各行事の様子が随時掲載されていますので、左記のQRコードから学校ホームページにアクセスしていただき、ご利用ください。また、同窓生の皆様のご活躍や地域の情報、学校に対するご意見ご要望がございましたら事務局までお寄せいただけますようお願い申し上げます。

叙勳勲章  
祝意をこめてご紹介申し上げます。

瑞宝小綬章 島田 一敏様  
(S48年卒)

瑞宝双光章 越 正至様  
(S48年卒)

